

酒文化研究所

NEWS LETTER

第 98 号 2021 年 2 月 25 日

【トレンド】

広がるオンライン酒コミュニケーション

ー 発見！ オンラインならではの価値

巣籠が始まって 1 年が過ぎようとしています。外での飲食や移動が強く制限され、生活はそれまでと大きく変わりました。仕事帰りに一杯飲むことや歓送迎会や忘年会で懇談する機会は激減し、結婚式やお祭りなど冠婚葬祭行事の多くは開催を見送られました。出張や観光旅行もできず、ホワイトカラーを中心に在宅でのテレワークが拡大、スペースが余った都心のオフィスは再編が進みそうです。

こうした変化を受けて酒類の消費は外飲みから家飲みへとシフトしました。また、各地で開催されてきた日本酒やビールの試飲イベントは中止が相次ぎ、見学者を積極的に受け入れてきたビール工場や酒蔵、ワイナリーも見学を休止せざるを得なくなりました。

一方で拡大したのがオンラインでの酒コミュニケーションです。リモートでの試飲セミナーやファンとの交流会が一般化し、自宅に居ながら遠方の生産者や愛好家と交流することができるようになりました。工場見学も製造の細部まで見せられるなどオンラインならではのベネフィットが注目されています。今回はこの一年間におこなわれたオンライン酒コミュニケーションを振り返り、これからの展開を考えます。

【お問い合わせ】 本資料に関するお問い合わせは下記まで。

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 3-3-14CM ビル

株式会社酒文化研究所 <http://www.sakebunka.co.jp/>

TEL03-3865-3010 FAX03-3865-3015

E メール：yamada@sakebunka.co.jp

■ 海外で先行したオンライン酒セミナー

日本でコロナ禍に伴う最初の緊急事態宣言が出されたのは2020年4月でした。ここから巣籠生活が始まりましたが、新型コロナウイルスの感染者が急増していたミラノ、パリ、ロンドン、ニューヨークなど欧米主要都市は3月にロックダウンされ、欧州各国では全土に制限が拡大されていました。レストランや商店は強制的に休業させられ、生活必需品の購入以外は家から出られないという厳しいものでした。

こうしたなか海外で日本酒を輸入販売していたインポーターたちは、オンラインでの有料試飲セミナーの開催にトライします。近年、日本酒の輸出量は年々増加していますが、欧米の一般家庭の食卓に上ることは稀です。多くは日本食レストランで提供されており、ロックダウンでレストランが営業できないことは、死活問題でした。そこでインポーターたちは得意先のレストランやその先の日本酒ファンに試飲キットを販売し、日本の酒蔵とオンラインで結ぶセミナーを企画します。こうした手法はワインで先行しており、それを

そのまま日本酒に置き換えて実施、国境を越えて日本の酒蔵と結んだのでした。4月ごろから各国で開催されるようになり、ショップやレストランが試飲キットを販売して集客するパターンが広がっていきました。



ニューヨークの商社ワイン・コネクション社は昨年5月初旬に今田造本店（広島）と組んで試飲セミナーを開催し約200人が聴講した。
写真提供：石黒かおる

■ 海外から日本向けのセミナーが続々

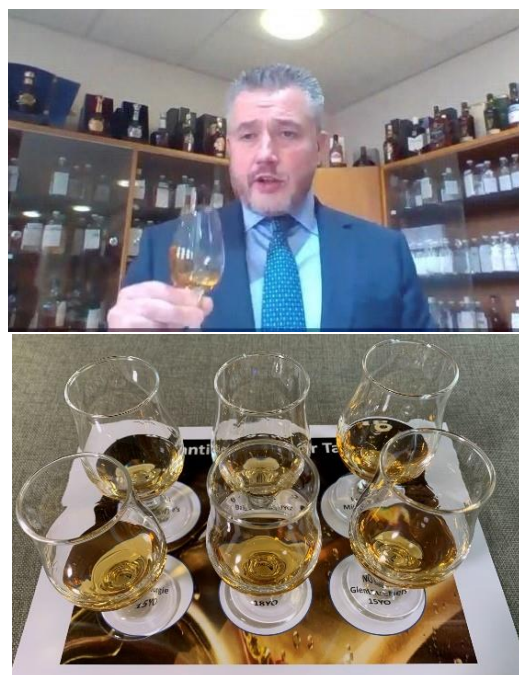
オンラインミーティングは国境をやすやすと超えてコミュニケーションできることが実感されると、海外から日本に向けてメッセージを発信する企画も出てきます。フランスでソムリエが審査する日本酒コンテスト「Kura Master」は、コロナ禍で5月末に予定していた審査会の8月末への延期を余儀なくされました。それに伴い必ず審査会を開催するというメッセージを発信するために行ったのが、5月25日のオンライン・ティスティング会です。前年に好成績を上げた4つの酒蔵にパネラーと



Kura Master のオンライン・ティスティング会。パリと日本を結んで、リアルタイムで酒にコメントした

しての参加を依頼し、彼らを紹介するとともに審査員が商品についてテイastingコメントを述べるというものでした。

海外と日本を結んで、より組織的にコントロールされたセミナーがおこなわれたのは9月1日に開催された世界的なスコッチウイスキー「バルンティン」のテイasting・セミナーです。イギリスにある蒸溜所のテイastingルームから、マスターブレンダーのサンディー・ヒスロップ氏がセミナーをおこないました。参加者には事前に『バルンティン 17年』の6つの構成原酒が試飲サンプルとして提供され、ヒスロップ氏のリードで順番に試し、どのように味わいを形づくっているかを学ぶというものでした。



吟味された内容を専門家が丁寧にリードした「バルンティン」のセミナー。オンラインでも十分にできることを示した

■日本からオンラインで海外へ発信も拡大

反対に日本から海外向けに発信するオンラインイベントも登場します。日本産酒類の輸出促進は国を挙げて進められていますが、輸出先の国ごとに流通の仕組みや販売規制を整理し、普及のために必要な情報を整理した後は、プロモーション活動の大きな柱は海外の酒類展示会に出展し、商談の場を設けることでした。しかし、コロナ禍で開催を取りやめる展示会が相次ぎ、これまでの活動フレームを見直さざるを得なくなります。

注目を浴びたのはオンラインでの情報発信です。日本酒と本格焼酎・泡盛メーカーの業界団体である日本酒造組合中央会

(港区)は、海外で和酒のアンバサダーとなる人材の開発育成に力を注いできましたが、彼らを多く起用して11月に大規模なオンラインイベントを開催します。24時間連続で20以上の多岐にわたるテーマでのトークショーです。「SAKE Future Summit2020」と題されたこのイベ



「SAKE Future Summit2020」は和酒に関する深く幅広い情報を大量に英語で発信した

ントは、テーマごとに最先端の専門家がキャスティングされた充実した内容で、2020年時点での和酒が抱える課題を網羅し、それがすべて英訳されるというアーカイブとしても価値のあるものとなりました。

これまで集合セミナー形式で開催してきたテイスティング・セミナーも、リラックスした環境で自分のペースで試飲できるオンラインのほうが理解は深まるという意見もあり、対象や目的に応じてリアルとオンラインが使い分けられるようになりそうです。

■ 秋以降に本格化した国内のオンライン酒コミュニケーション

国内向けのオンライン酒コミュニケーションは秋以降に本格化しました。それまではB2B型の商品説明会はオンライン化していたものの、一般向けの企画は手探りの状態でした。大量の参加者を募ったところミーティングアプリのキャパシティを超えてしまい運営が滞ったケースや、参加者も不慣れなこともあって音声や動画再生でトラブルが生じたケースが数多くありました。それでも夏ごろには運営する側、参加する側が共に経験を積み、円滑にオンライン酒コミュニケーションが運営されるようになっていきます。



8月に岩の原葡萄園（新潟）が開催した「マスカットベリーAセミナー」。このブドウ品種を使用するワイナリーから、栽培や醸造の専門家がパネラーとなる多元中継。参加無料



11月に開催されたサントリー登美の丘ワイナリー特別セミナー生中継で実施。参加無料



1~2月に開催されたオンラインクラフトビアフエスティバル。試飲キットを購入して参加



12月に開催された「サントリーAo 特別テイスティング」。専用キットを購入して参加

■ リアルの代替ではない、オンラインならではの価値に着目

リアルでの酒イベントを開催できないため、代わるものとして開発が進んだ観のあるオンライン酒コミュニケーションでしたが、実施してみるとリアルでは解決が難しい課題をクリアする点が多々あることがわかってきます。たとえば製造工程は品質管理や安全上の問題、あるいはその日の作業予定の関係で見せられない工程がありますが、オンラインではこれらをすべて見せることができます。また遠方・交通手段がない・ドライバーがないなど様々な事情で参加できない方は少なくありませんが、オンラインでなら解決できます。

最近はこのオンライン酒コミュニケーションならではのベネフィットに着目したプログラムの開発が目立ちます。サントリーは、現在、山崎（大阪）と白州（山梨）の蒸溜所の見学を見合わせています。2月から始めたリモート蒸溜所ツアー「オンライン・ライブ」はリアルな見学が再開された後も継続して実施する計画で、いつでもどこからでも参加できるプログラムとしてリアルでの見学と補完し合います。また、同社はロールプレイングゲームを遊びながらビールづくりを体験するプログラム「冒険型ビール工場体験 BEER iLand」を3月4日に公開しました。新しいオンライン酒コミュニケーションとして注目したいと思います。■



山崎蒸溜所と白州蒸溜所の「オンライン・ライブ」試飲キット（左）。日時を予約してこのキットを購入して参加する。発酵槽の中の様子などリアルでは見られない部分が見られ、質問にもその場で回答、最後はガイドと一緒に試飲する。



ゲーム感覚で楽しみながら最高のビールづくりを体験する「ピアアイランド」。わざわざ工場見学には行かない一般層が、バーチャルでいつの間にかビール工場を見学するようになっている

■ 筆者プロフィール：山田聡昭（やまだとしあき）

株式会社酒文化研究所 第一研究室長。1963年生まれ。1986年武蔵大学卒業。酒類及びその市場と文化に精通し酒類企業をサポートするほか、酒文化に関するレポートを多数執筆。

